

《特集記事》

みんなで作ろう！どんぐりの森 in 田井ノ浜

徳島河川国道事務所

工務第二課 東條 眞吾

1. はじめに

道路工事に携わる私たちにとって、自然との共生を主とした環境保全は重要な課題である。日和佐道路においては、計画地が山間部を通り山谷を切り開いての工事となるため、この課題は工事と一体となって果たさなくてはならないものであった。近年、外来種優占に対する懸念から、その土地本来の気候風土に応じた植生（潜在自然植生）を活用した緑化について社会的関心が高まっているところである。

そこで、幼苗植栽などの活動を通して道路事業への理解を深めると同時に、豊かな自然の大切さを感じ取ってもらうために、地域の皆様方の積極的な参加を募集し、永く愛される森づくりを進めていきたいと考えた。なお、本取組は国土交通省が全国12箇所で試行的に進めている「森つくるマップ」のひとつに登録されている。

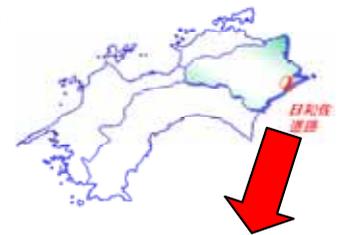


図 - 1 植樹箇所

2. 1 どんぐり探検隊の結成

植栽に先立ち行われた自然植生の調査では、多種多様な常緑広葉樹が混成し、森を形成していることがわかった。その多くがどんぐりの実をつけるシイ・カシ類であることから、山に落ちているどんぐりを拾い、育て、植える計画が生まれた。その最初の作業となるどんぐり拾いから地域の子供たちに参加を呼びかけ、「自然を学び、遊び、もっと知ろう！」を掛け声に、「どんぐり探検隊」が結成された。



写真 - 1 四国のみちを行くどんぐり探し



図 - 2 どんぐり探検隊募集

平成17年10月29日、地元美波町に住む子供たちとその家族約40名から成る「どんぐり探検隊」が出発し、美波町内の「四国のみち」を散策しながらどんぐりを拾っていった。拾ったどんぐりは、ポットに植えて持ち帰ってもらい、日和佐道路に植栽するまでの約1年半の間、里親として子供たち自身によって大事に育ててもらったこととなった。これは、四国初の取組である。

2.2 「ZOOM55」の発行

一方、日和佐道路事業に関しては、工事の内容や進捗状況をお知らせしながら沿線の地域情報をお届けするイメージアップ・マガジン「ZOOM55」を隔月で発行してきた。平成17年9月の創刊号以来、「どんぐり探検隊」の参加募集や活動報告、拾われたどんぐりの成長記録、橋・トンネル・ICの名称募集や決定報告及び各種イベントへの参加募集や状況報告等は、この中で紹介してきた。さらに、地域の皆様や読者の意見を取り上げるために、プレゼント付きアンケートはがきを加え、読者との対話型情報誌としてのアプローチが道路事業や国土交通行政への理解を深める一助となっている。

なお、ZOOM55の発行部数は1回につき10,000部、発行エリアは阿南市の一部、美波町内の新聞折込、四国内の各道の駅などであり、平成19年6月までに12回発行している。



図 - 3 ZOOM55

3.1 樹木計画と土壌改良

「どんぐり探検隊」により大事に育ててもらったどんぐりのポット苗はもちろんのこと、それ以外の樹種についても、その選定や混植割合について、日本を代表する植物生態学者である横浜国立大学の宮脇昭名誉教授に多大なご協力をいただいた。現地植生調査を行い、地域の潜在自然植生を把握した上で、表-1のような植栽樹種の計画が立てられた。また、対象となる法面の処理等についてアドバイスをいただき、植樹に先立つ表土改良等は図-4のような標準断面計画が立てられた。

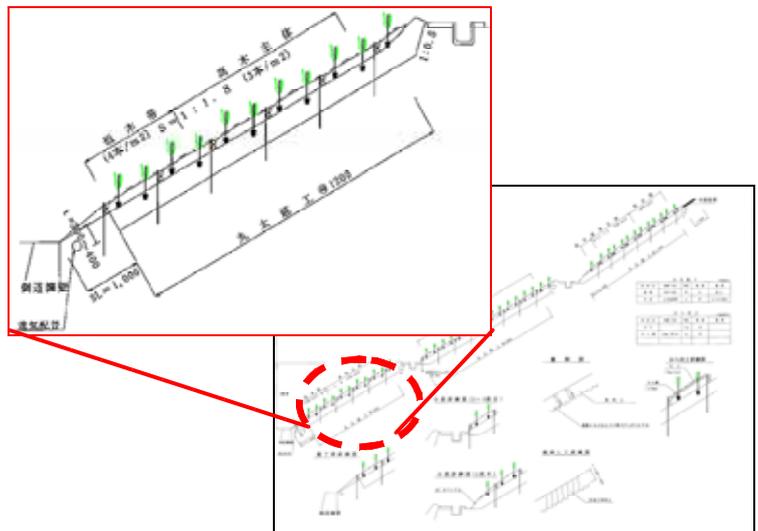


図 - 4 標準断面図

表 - 1 植栽樹種リスト(全24種 約19,000本)

樹木名	種類	樹木名	種類	樹木名	種類
アビ	ツツ科 アビ属	サカ	ツバキ科 ツバキ属	スミエ	モクセイ科 ヨククワ属
アラカシ	ブナ科 コナ属	ダジイ	ブナ科 シ属	ハヒサキ	ツバキ科 ツバキ属
イハヒメシ	カデ科 カデ属	シメ	シメ科 シメ属	ホトケ	ホトケ科 ホトケ属
ウメカシ	ブナ科 コナ属	シラカシ	ブナ科 コナ属	マサキ	ニシキ科 ニシキ属
ウツロカシ	ブナ科 コナ属	シャリバイ	バラ科 シャリバイ属	モチキ	モチキ科 モチキ属
カクレミノ	ウギ科 カクレミノ属	タブキ	クスノ科 タブキ属	ヤブツバキ	ツバキ科 ツバキ属
カノキ	クスノ科 ハナビラ属	トハラ	トハラ科 トハラ属	ヤマザクラ	バラ科 サクラ属
クガネチ	モチキ科 モチキ属	ツバカシ	ブナ科 コナ属	ヤマモ	ヤマモ科 ヤマモ属

3.2 日和佐道路「どんぐりの森づくり」大会実行委員会

美波町、阿南市、徳島県、国土交通省徳島河川国道事務所、日和佐道路工事安全協議会等から構成される日和佐道路「どんぐりの森づくり」大会実行委員会が発足し、平成18年12月25日に第1回委員会が実施された。できるだけ多くの皆様方にイベントに参加していただくために、参加募集の広報のあり方や当日の各種催し、交通アクセス等、ハード・ソフトの両面から様々な議論が交わされた。特に、イベント当日の地元商工会の協力による伊勢エビ味噌汁のふるまいやJR四国の協力による「どんぐり列車」(田井ノ浜駅への臨時停車及び団体割引料金の適用)の運行は、イベント参加への強力なアシストとなった。



写真 - 2 どんぐり列車とどんぐり君

3.3 各種広報メディア

メディアを集計分析した結果、インターネットや ZOOM55 応募はがきからの申し込みが多数を占めたことから、IT時代の本格的な到来と ZOOM55 による他のイベント参加者のリピーターの存在が明らかになった。当初募集予定を大幅に上回った今回のケースは、非常に効果的な広報であったといえる。

表 - 2 広報メディアリスト

募集メディア	発行部数	募集メディア	発行部数
一般リーフレット	22,050	ZOOM55	10,000
小学生用リーフレット	6,400	Wire ママ	8,000
中学生用リーフレット	3,240	050	
ダイレクトメール	897	どんぐり探検隊 HP	
美波町広報	3,000	携帯 QR コード	
新聞折込チラシ	4,400	TEL, FAX, Mail, ハガキ	



図 - 5 一般リーフレット

4. 「みんなで作ろう！どんぐりの森 in 田井ノ浜」開催

日和佐道路開通前の記念事業として、平成19年3月25日13時「みんなで作ろう！どんぐりの森 in 田井ノ浜」が盛大に開催された。会場には宮脇先生も駆けつけ、開会式では森と人との関わりや地域の植生についての講演、植樹方法と作業上の注意点などの指導をしていただいた。

当日は天候にも恵まれ、家族連れや年配のご夫婦、友達同士など、約2,000人の方が各地から訪れ、会場は大賑わいとなった。「どんぐり探検隊」の皆様が拾って大切に育てたどんぐりは植樹に適

した苗に成長し、10年後、20年後には見事な森となるよう願いを込めて、自分たちの手で丁寧に植えられていった。こうして、24種約19,000本のポット苗、約40,000粒のどんぐりが日和佐道路の法面約1haに植樹された。

植樹作業の後、参加者らは各種ゲームで遊んだり、高所作業車に試乗したり、地元特産の伊勢エビ味噌汁をいただいたりと思い思いの時間を過ごし、大盛況の内に閉会することができた。



写真 - 3 宮脇先生による植樹指導



写真 - 4 植樹作業風景



写真 - 5 植樹作業風景



写真 - 6 建設機械アメリゲーム



写真 - 7 四国8の字ハイウェイ



写真 - 8 高所作業車体験



写真 - 9 伊勢エビの長寿汁

5. おわりに

最初は約40人の参加者とどんぐり拾いから始まった「どんぐり探検隊」が、2,000人もの人を集め約19,000本の苗木を植樹するところまで成長した。応募者数が多く途中で募集を打ち切らざるを得なかったことや苗木の育成期間が短かったことなど、反省点は多くあったが、今回集まっていたいただいた2,000人の方たちが、家族やお友だちに「この森の木は私が植えたんだ」と誇らしく語っていただけよう、植樹の森がすくすくと育ってくれることを願うばかりである。また、その語り伝えが、森や自然を愛する心を多くの人に芽生えさせることを期待したいと思う。

この事業をひとつの範として、私たちの取り組む事業が、人と自然の良い関係を築いていけるよう、よう、積極的に取り組んでいこうと思う。



写真 - 10 H19.6.20 現在の生育状況



図 - 6 ZOOM55 植樹祭特集